

令和4年度 第24回東北地区国立高等専門学校 技術職員研修 参加報告

技術第2班 遠藤 健太郎

技術第1班 佐藤 真人

1. 目的

本研修会は東北地区の国立高等専門学校に勤務する技術職員に対して、その職務遂行に必要な一般知識及び新たな専門的知識、技術等を習得させることにより、技術職員としての資質向上を図ることを目的とする。

2. 主幹校及び期間

八戸工業高等専門学校
令和4年8月31日(水)

3. 形式及び会場

Teamsによるオンライン形式
鶴岡高専 電子メカトロ実験室で受講

4. 日程

- 9:00-9:30 接続確認等準備
9:30-9:50 開講式・参加者自己紹介
10:00-11:40 技術発表と討議(第1セッション)
※発表10分、質疑応答2分
11:40-12:40 昼食休憩
12:40-13:00 接続確認
13:00-13:40 講演
「産学医連携による医療用新型コロナウイルス防護服の開発」
講師：八戸高専産業システム
工学科 機械・医工学コース
准教授 郭 福会 氏
マテリアル・バイオ工学コース
准教授 山本 歩 氏
※講演30分、質疑応答10分
14:00-15:40 技術発表と討議(第2セッション)
※発表10分、質疑応答2分
15:50-16:00 閉講式

5. 研修内容について

5-1. 技術発表と討議について

当該発表・討議では、コロナ対策で実施されているオンライン実習の紹介や教材開発による実習支援について、また、ものづくり体験講座の実施例について等の内容で多岐に渡り、計11件の発表が行われた。本校からは、佐藤(真)が民間企業で培った技術の紹介等に関する内容で「平面度を向上させる加工技術について」、遠藤が奨励研究費で実験実習用に製作したAIスピーカーの紹介と導入効果等に関する内容で「実験実習でのAIスピーカーの活用と効果確認」と題して2件の発表を行った。

5-2. 講演について

当該講演では、コロナ下における医療現場での防護服の現状や開発に至る経緯、産学医がどのように連携を図ったか等の内容をお話頂いた。開発した防護服は既存品に比べ、自分で着用できる事や軽い事、ヘルメット部が使い捨てのため清潔等といった利点がある。しかし、実際に着用した現場の人から改善を要求された部分もある為、弘前大学での実用実験等を通して更なる改善を進めていくとの内容であった。

6 おわりに

本研修会を開催するにあたり、準備から運営まで行って頂いた、八戸工業高等専門学校教育研究支援センターの皆様に感謝を申し上げます。本研修会で学んだことを自身の業務や学生指導等に活かせるよう努めていきたい。